

# 第36回 うつのみやこども賞だより

## 令和元年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

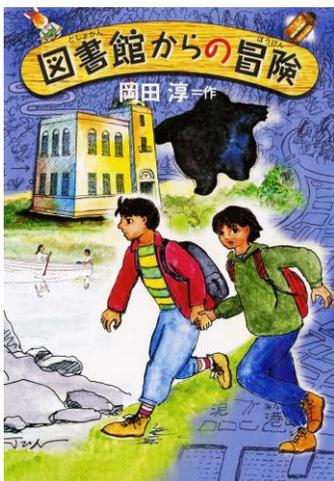
### 《今月選ばれた本》

#### 『図書館からの冒険』

岡田淳／著（偕成社）

#### 『moja』

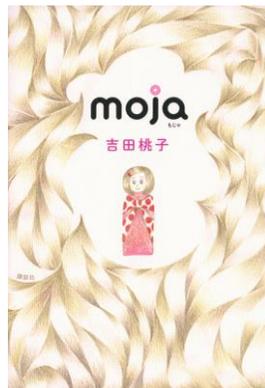
吉田桃子／著（講談社）



- ゴールデンウィークでこんな冒険ができるのは、少しうらやましいです。また、題名だけで内容が気になって、ぜひ友達に進めてみたいと思います。作者の岡田淳さんが個人的に好きです。
- 絡みあった様々な謎が少しずつ解けていくのが、すっきりしました。シバノザキ島の人達がみんな優しく、個性が豊かでした。
- 前から岡田淳さんの本が大好きで、この本も面白かった。特にミレイさんを落とすために、みんなが出来るところを頑張るのが良かった。
- 冒険シリーズを久しぶりに読んだから、興味を持って読めた気がする。
- なぞめいていたところもあったけど、おもしろかった。

令和2年2月2日

うつのみやとしまかん  
Utsunomiya city library



- 1人1つは必ずコンプレックスがあるという、とても共感できる話だった。題名からは考えにくいけれど、読んでどんどんおもしろくなった。
- 学校の話でよみやすかった。主人公があきらめずにごんばっていて、かっこいいなと思った。
- 理沙は「モジャ」がコンプレックスで、私も共感できるところがたくさんあって、とっても読みやすかった。
- 「もじゃ」の理沙が自分で意見を言ったりして成長していく姿に感動した。年上の兄がいるという点で共感できた。

●自分の体になやみがあった主人公が、友達とけんかしながら友達とも仲良くなって、友達にも自分のなやみを言えるようになったところがよかったです。

#### 『中くらいの幸せの味』 みとみとみ／著（国土社）

- 家族の愛がとてもよく伝わってきたので、いいとおもいました。お店がなくなるというときはビックリしたけど、なくならなくてよかったです。
- 盛太郎が商店街のことをだんだん考えていくところがいいと思った。いろいろピンチになって、さすがどうなってしまうだろうとドキドキした。
- お店の手伝いをして失敗したことがあった主人公が、お店の手伝いを通していつもやってなかったことをやってみてはどうか、という提案をするまで成長していくところがいいと思った。
- 感動しました！！とても良い内容だと思います！低学年でも高学年でも読めると思いました。
- 表紙を見たときに温かみがあっていいと思った。商店街のためにがんばる盛太郎とすすを応援してあげたくなった。

#### 『冒険考古学失われた世界への時間旅行』 堤隆／著（新泉社）

- タイムスリップで過去と現在を行き来するのがいいと思った。青い実と赤い実が閉じこめられたとき、少しショックだった。
- 歴史好きにはたまらない。考古学は「死」と直面するというけれど、そこまでよくわかんなかった。
- けっこう読みやすくて、読んでてこんなものがあるんだと学べるような本だった！
- スマホで大昔に戻れるという設定がおもしろかったし、今と大昔の子どもが友達になって、いろいろな体験ができたところがよかったです。
- はっくつ現場の所がすごくリアルで面白かった。クリとクラが赤い実・青い実なのは、絵本のぐりとぐらの服からきているのかなぁと思った。